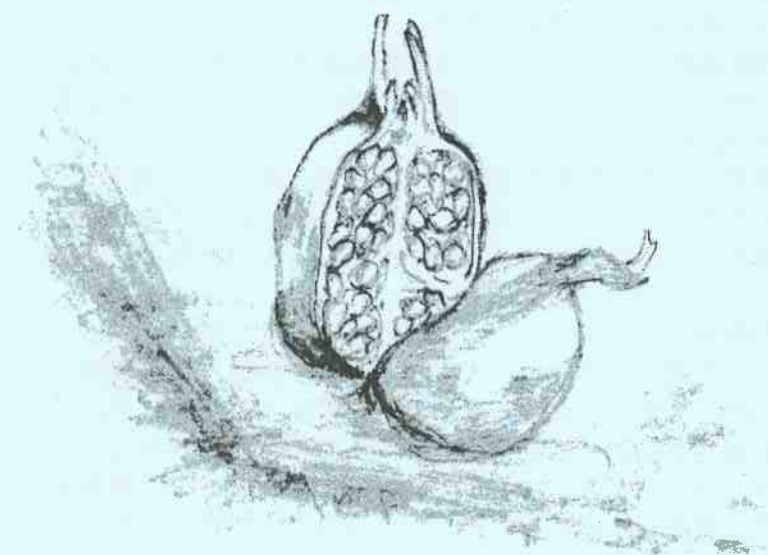


ふれあい 雪谷

平成19年

あさがお号



(小池 高橋 久子さんの作品)

母校の思い出 29

「小学校の思い出・池雪」

昭和26年、まだ物が不足していた時代でした。小柄だった私は、軍隊のお下がりの重くて大きな茶色のランドセルを背負い、入学しました。古いランドセルが嫌で、母親に皆と同じ新しい黒いランドセルが欲しいと泣いて抗議したことを今でも覚えています。校舎は木造の平屋でした。今のスタンドの辺りに、バス通りから裏通りまで細い道路があったように覚えています。2年生のときに雪谷小学校が出来てクラスの友達の何人かは転校していきました。石川台の駅の近くから来ていた友達でした。

貧しい物不足の時代でありましたが、皆が仲良く元気に遊んだ思い出があります。卒業して五十数年、今でも小学校のときの話が出ます。

入学時に植えた記念樹、ヒマラヤ杉でした。たしか6組あったクラスが1本ずつ植え、私もスコップで土をかけた思い出があります。久しぶりに校庭に行ってみたら、記念に植えたヒマラヤ杉と思われる木が1本だけ大きく育っていました。大変懐かしく思い、しばらく見つめておりました。いつまでも枯れることなく、元気に育ってほしいものです。

(東雪 八代正勝)



「編集後記」

「ふれあい雪谷」が如何に読まれているか知りたくて、刷りたてのさくら号を、お花見の時配って回りましたら、かなり大勢の方に「いつも読んでいますよ」と言われました。本紙は皆様の御寄稿に支えられています。あさがお号にも、素晴らしい原稿が沢山集まりました。これからも皆様の御愛読と御寄稿をよろしく願っています。

(南雪谷 太田 眞弘)

【発行】わがまち大田雪谷地区推進委員会
【編集】ふれあい雪谷編集委員会
連絡先 雪谷特別出張所
大田区東雪谷四三二二二三
電話 三七二九一五二七
【発行日】平成十九年七月一日
通巻第六十六号

四月一日から、ふれあい雪谷の編集委員が替わりました。

希望ヶ丘自治会 (旧) 米川 實
(新) 木原 恵
池の台自治会 (旧) 岡野 喜代子
(新) 柏 三八子

「サークル紹介36」

「東中自治会囲碁教室」

本会は、平成六年から現在に至っております。会の主旨は楽しく、脳の活性化、互いに人々を愛し、健康を維持するなどを心に刻んでおります。毎月第二日曜日、第四日曜日、会場は東雪谷会館で、午後一時から四時頃まで、会費は無料です。有段者から何級かと、棋力がございしますが、囲碁は置碁のルールで指しております。各級の方々は力量が上がり、一層の向上に励んでおります。尚、希望としては、小学生や中学生等多数参加頂けるよう頑張りますので、お気軽にご参加下さい。見学は自由です。もしよろしければ一度東雪谷会館にお越しください。男女は問いません。よろしくお願い申し上げます。

(東中 菅野哲男)

私の健康法28

「気概は健康維持に 欠かせない要因だ」

現世は全ての分野において、知識、技術は発達して人間の限らない力量には驚嘆するばかり。人間が性を得てから、「生者必滅」という業を背負って前進し、何時しか浄土に旅立つ。生きている限り、元気に毎日を過ごしたいと思うのが常であります。若い時から練習に明け暮れ、体力を鍛え上げてきた、あの巨人軍の長嶋さんでさえ、病には勝てないのも仕方ないと言わざるを得ません。そのときに自分に合ったトレーニングを選び、健康維持に努めるのが善かと考えると同時に、メンタルな部分も付随してこそ効果が伴うのではないのでしょうか。殊に、年配の方は単独で鍛錬を重ねるよりも、多くの仲間と会話を楽しみつつ実行することにより、その効果が倍増します。

森光子さんが毎日スクワットを何回も行なうて健康管理をしているのも、それによって芸能活動を継続し、多くの方に接触して、脳の活性化をしているからお元気にいられているのだと思います。

仮にリタイアした方でも、家に引きこもらず、地域社会に足を向けて、持てる力をボランティアに注ぐのも健康維持につながるのではないのでしょうか。私も商売柄、毎朝配達に出て体を動かしてお客様とお話をさせていただくことが元気をいただける要因と感謝しつつ、日々を送っております。

人間誰しも、大なり小なり悩みはあるものです。人々と話すことでそれを打ち消すことが、明るく楽しく過ごすための健康法の最大要件ではないのでしょうか。

(池の台 平澤久男)

「頭の切り替えが、必要な時代」

石川台の南斜面から、多摩川の方を見ると、川向こうに大きなビルが、そくそくと建っていくのが見えます。我々の住む雪谷周辺も、マンションやビルが建ち並び、街の様相は一変しました。

景色だけでなく、世界情勢も、テロや地球温暖化等、予想もつかない変化がおきています。一方、我々は今までのままでいいのでしょうか。私どもは、それぞれ努力はしているのですが、今までの延長線上だけの努力や意気込みだけでは、世の中全体が想定外の変化をした場合、困った問題が出てくるのではないかと思います。

例えば、会社勤めは、突然外国人の社長に変わったり、会社全体が、乗っ取られたりしています（この事は、必ずしも悪いことばかりでなく、会社の業績がよくなった場合もあり、又現在の好景気により影響を与えている面もあります）。

大会社も、終身雇用とか定年まで居られる人は、ごく限られた人であり、役所も、社会保険庁のようにシステムが大きく変わることがあります。

学校教育も、今までのように教科書さえ理解していればいいのではなく、むしろ一芸に秀でた人が、マスコミに注目されたりします。

定年になり、年金生活になったとき、家でぶらぶらしているとすぐに体力がなくなります（私の経験です）。毎日積極的に出歩き、若い人と数多く接し、新しい考え方を吸収しないといけません。

勉強嫌いな子供から、「なぜ勉強しなければいけないのか。」と聞かれたら・・・ソフトバンク新書「なぜ勉強するのか？」鈴木光司著によると、未来をよりよくするために勉強することがわかれば、子供は勉強が楽しくなるようです。まだ、例はいくらかありますが、これからは変革の時代に適合した頭の切り替えをしないといけないと思います。

（希望 木原恵）

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆☆ 洗足池ホテル観賞会 ☆☆
☆☆ 開催日時 7月28日（土）午後7時30分～午後9時 ☆☆
☆☆ 会場 洗足池水生植物園八ツ橋 ☆☆
☆☆ 荒天時 少雨決行、悪天候の場合は翌日に順延 ☆☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

「雪谷再考・雪谷最高」

そよかぜ
「みどりの微風さわやかに～、さわやかに～♪①」「希望ヶ丘のあさぼらけ、みどり香ぐわしすがすがし～♪②」、この詞に聞き覚えはありませんか。

♪①は雪谷中学校、♪②は雪谷小学校の校歌です。新緑の眩しい季節となり子供たちもスクスクと新しい芽を伸ばしています。

私は雪谷に生まれ育ち、母となって、こちらに再び住居を構え14年になりました。商店街の方々から元気をもらい、スポーツクラブのボランティアコーチにご指導を頂き、地域の方々に支えられての子育てをしています。

友人たちは、「一度遠くに離れて暮らしてみたら、雪谷のよさがもっとよくわかるわよ」と言います。住めば都、どこでも変わらないのでは、夫の転勤で実感するのかしらと内心ドキドキしておりました。

そして今春辞令がおり・・・雪谷での暮らしをもう一度考え直そうと、友人知人数十名に聞いてみました。その結果、9割の人が雪谷は住みやすいと答えました。その理由は、豊かな庶民性・買物交通が便利・教育環境のよさ、そして静かな住環境等でした。雪谷のこの地域性は何年も変わらない。そこに住んでいる人の温もりで楽かれているものです。

夫は単身赴任し、子供と私は雪谷で暮らす選択をしました。ここがふるさとになるのでしょうか。雪谷は大切な所。だから今日も笑顔で「いってらっしゃい」。

（石川台 A. U）

「美しい環境づくり 24」

今、メディアに「環境」の文字が登場しない日はない。身の回り全てが通じ合い、つながって生かされている。綺麗な花に心潤し、優しい心に心和ませる。それなのに人間が地球をいじめ、全てを病ませ、傷だらけにしてしまった。傷は目に見えない恐ろしい力で、ある日、突然襲い掛かり反撃してくる。だから、この頃未曾有の事件が多くて変だ。

この透明な空気ですえ美しくないことには胸が痛む。
～をしよう（環境に良いこと）～をやめよう（環境に悪いこと）はあまりに多くなり過ぎて、1人では解決困難である。しかし、個人的には、朝起きて歯磨きの節水から環境行動を習慣づけることに始まり、他には、それぞれの関わる「輪」の中で協力し合い、補い合うことで、若人には来たる将来への気力に満ちた、熟年には在りし昔懐かしい、平和で安心な美しい環境を取り戻せるのではないだろうか。それを切に願う。

（笹丸 小林洋子）

自治会リレー随筆

～夏の思い出～

私の両親は、新潟県魚沼市の生まれです。東京育ちの私も、子供の頃は毎年夏休みに祖父母の待つ田舎に行きました。夏祭りが楽しみで、気心知れた従兄弟達と盆踊りや金魚すくいに興じたものでした。山で遊び、川で泳ぎ、お腹が空けばスイカにとろろこし、蟬の鳴き声をBGMに昼寝、都会では到底味わえない贅沢な時間を私は過ごすことができました。



結婚した翌年、親戚に主人を紹介するために、しばらくぶりに新潟に行きました。小柄で笑顔のかわいい祖母と、口数は少ないけれど温厚な祖父が待っていてくれました。改札など通らなくても自由に出入りできるローカル線のプラットホーム、田んぼだらけで何もない駅前、ずっとこの風景のままでいてほしい、そう思ったものでした。

東京に帰る日、玄関先で祖父母に別れを告げ、伯母たちと駅へ。2両編成の電車に乗り込み、窓から顔を出すと、見送りの人達の肩越しに祖母の顔がありました。急いで、後を追いかけてきてくれたのでしょう。胸がつまって、「元気でね、おばあちゃん。」と言うのが精一杯でした。主人と2人、ホームの人達が見えなくなるまでは笑顔でいたものの、込み上げる涙が暖かくもあり寂しくもあり、結局、それが祖母を見た最後になります。

あれから20年、今でも私の心の中には、かわいらしい笑顔の祖母が生きています。今年もまた暑い夏がやってきます。

（上池上 I. T）



季節の俳句

己が顔映して掬う清水かな

茄子漬の色で迷わす妻の味

頬張りて頭に沁みる欠水

（東中 菅野哲男）

明日もまた一笑できるか芋焼酎

緑陰に座す纏網のほとけかな

ふうわりと風が濃くなる釣俵

姿なき父の縁側冷やし瓜

（希望 木原仁子）